

たんぽぽだより



2026年3月20日 発行384号

社会福祉法人龍鳳 たんぽぽ

〒176-0001 練馬区練馬 2-14-9

TEL03-5946-3588

<http://www.fukushiryuhoh.or.jp/tanpopo/>



□基本理念

○利用者の心と体をもっとも大切に考え、自立と社会参加を援助することを基本理念としています。

○温もりのある心と未来を見通す広い視野をもって、利用者一人一人の持つ能力や才能を存分に発揮できるよう努めます。

便利さの裏で

施設長 澤井 康郎

世の中が便利になる一方で、逆に不便を感じるような事例もあります。かくいう私は未だにスマホ決済サービスを使っていません。先日、免許更新に行ったとき更新費用は現金がダメということでしたから、仕方なくクレジットカードで支払いました。また、友人と食事をするときにも友人はスマホ決済サービスを使い一旦決済し、その後で私が現金を渡すという面倒なことをしています。私は払う相手が人であっても機械であっても、お財布がお釣りでいっぱいにならないように、可能な限り1円単位で端数を小銭で払っています。お陰でお釣りの計算はサッと出てきます。今の若い人から見ればダサいかもしれませんが、これからの子供たちは現金で払う経験をしなくて大人になっていくと、どうなるのでしょうか。現在、公衆電話のかけ方が分からない子供がいます。数年先には、お釣りの意味が分からない子供が現れるのではないかと思います。算数の教科書も買物の問題などで、例えば「1本50円の鉛筆を3本買いました。200円を払うとお釣りはいくらでしょうか。」なんていう問題は成立しなくなると思います。スマホを読み取り機にかざせば、お釣りなんて受け取らないのですから。また、食事をするとき、注文はタブレットやQRコードを読み取りスマホからというお店が増えてきました。ネットで商品を注文すれば、翌日には手元に届いたり、タクシーもスマホアプリですぐにつかまえられたりします。技術の進歩により暮らしがより便利になってきています。しかし、デジタル機器が進化して、スマートフォンやパソコンなどの操作が難しく、その環境についていけない人にとっては、インターネットバンキングやオンラインショッピングなどの便利なはずのサービスが逆に難しさを増しているのではないのでしょうか。特に高齢者や障害者の方たちにとって、世の中の便利さが不便に感じることもあるのではないのでしょうか。

京都先端科学大学の川上浩司教授によりますと、「不便とおもわれていることの中にも、実はいいことがある。」として、「不便益」（不便だからこそ、益があるもの）という言葉が使われています。例えば、ある高齢者向けのデイケアセンターでは、施設内に段差や坂、階段といったバリア（日常生活で障害となる可能性のあるもの）をあえて配置しているそうです。そういったバリアの存在が、実は入居者の身体能力が衰えるスピードを緩めてくれるということが分かってきたとのことでした。日常生活の中で様々なバリアを全部排除するのではなく、その不便さに実は「益」があったんだということだそうです。私たち支援する側も何でも手を添えるのではなく、自分でできることは継続してできるようお手伝いしていきたいと考えます。

本年度も保護者・地域の皆様には、ご理解・ご協力いただき、ありがとうございました。

4月の活動予定

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11 開所日
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29 昭和の日	30		

ご寄附をいただきました

令和8年3月7日、全国PHP友の会・PHP思いやり運動様を通じて、寄附金5万円を頂きました。当日は利用者の皆さんにもご協力いただき、玄関先での贈呈式を行うことができました。

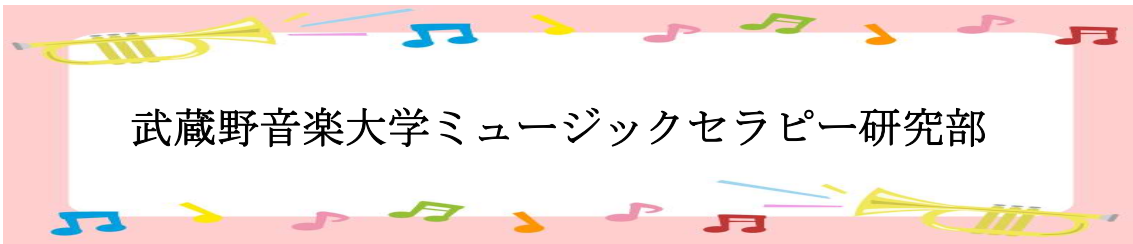
毎年のご寄附を、本当に感謝申し上げます。たんぽぽの活動の中で、大切に使用させていただきます。ありがとうございました。



利用者の皆さんが横断幕を持ってお手伝いしてくださいました



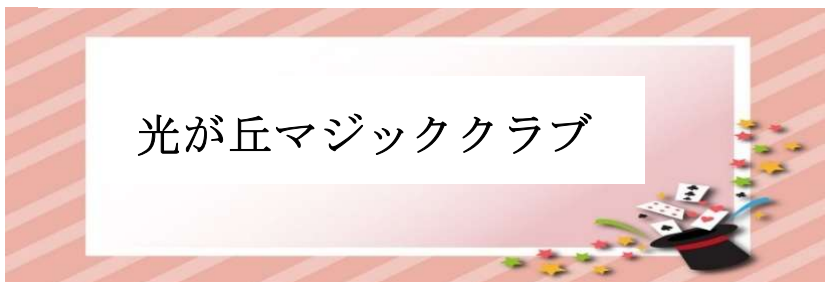
地域交流イベント



武蔵野音楽大学ミュージックセラピー研究部



幸せなら手をたたこう・トトロやディズニーのメドレーを演奏していただきました。



光が丘マジッククラブ



多彩なマジックを披露していただきました。



就 B 活動紹介・生活介護発表



たんぼぼの活動をみなさんに紹介しました。



令和8年2月7日(土)に地域交流イベントを行いました。当日は、雪が降るかもしれないとの予報でしたが、幸いにも雪は降らずに安心して開催することができました。

今回は【武蔵野音楽大学ミュージックセラピー研究部】・【光が丘マジッククラブ】の2団体に参加して頂きました。武蔵野音楽大学ミュージックセラピー研究部様は、“木管五重奏”と様々な楽器を使って、私たちになじみのある曲をたくさん披露してくださいました。中でも“ホルン”という珍しい楽器があるのですが、形も特徴的でありましたが、とても心地の良い音色で参加者の皆様も、楽しく聞くことができました。光が丘マジッククラブ様は、30分の時間が長く感じるような、とても見ごたえのあるマジックをたくさん披露してくださいました。中でもコップを使ったマジックでは、参加者の方に果物の名前を聞いたり、参加者を楽しませてくださいました。

就B活動紹介・生活介護発表では、利用者の皆さんがとても頑張ってくれました。日頃の成果を十分に披露することができたと思います。自主製品の販売も予想を遥かに超える売り上げでした。地域の皆様と利用者の皆さんが交流する事ができてとてもよかったと思います。

今回だけでは終わらずに、たんぼぼから地域の皆様と交流できるような企画を次年度も行っていけたらと思っています。どうぞ、よろしくお願いいたします。